



射水市名誉市民

ごう くら かず こ  
郷倉 和子

Gokura Kazuko

生年月日～没年月日

大正3年11月16日 生  
～ 平成28年4月12日 没

決定年月日

平成14年9月19日議決

主な経歴

日本画家  
日本芸術院会員  
文化功労者

## 功績

郷倉和子は、旧小杉町(現射水市)出身の日本画家、郷倉千靱の長女として、東京都に生まれました。幼いころは、野原を走り回ることや運動が大好きで、学校では毎年リレーの選手に選ばれる活発な少女でした。

昭和10年、女子美術専門学校(現女子美術大学)日本画科を首席で卒業、翌年、21歳のとき第23回院展で『八仙花』が初入選、和子は父千靱よりも若く、しかも父が果たせなかった初出品で入選という快挙を果たします。ところが、若くして頭角を現したことが良くも悪くも注目を集め、高い評価の裏で、作品に千靱の手が入っているのではないかという陰口をささやかれることもありました。

和子は、謂れのない中傷を跳ね除けるため、さらに自らの絵画の世界を磨こうと、院展を代表する日本画家の安田靱彦に師事して画業に励みます。

以降、昭和14年の第26回院展に『春の庭』を、翌年の第27回院展に『やまつつじ』を出品、目標としてきた院展への3回入選を達成し、和子は初めて自分の力を実感したといいます。その後も大胆な構図とカラフルな色彩が高く評価され、昭和35年、46歳の若さで日本美術院同人に推挙、独自の画風を確立しました。

昭和50年10月、偉大な父千靱が、最後まで和子の作品を批評することなく、突然この世を去ります。翌年、父の後を追うように母蔦子が他界、和子は失意と孤独の中で、自らの表現方法に人知れず混迷の度を深めます。その苦しみの中で和子は、「梅樹」「梅花」「日本家屋の屋根瓦」など、自分の生活環境に根付いたテーマこそ描く対象にふさわしいと感じ、以来、感動を失うことなくこれらをテーマとした作品を描き続け、平成6年に日本美術院理事、9年に日本芸術院会員に推挙され、平成14年には文化功労者として顕彰されました。